松江工業高等専門学校

同窓会 会報

第12号
2022.11.1発行

同窓会事務局
〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内
TEL：0852-36-5111 FAX：0852-36-5119 E-mail: dosokai-jimukyoku@matsue-ct.jp https://dosokai.matsue-ct.jp/

若い力を求む！

松江工業高等専門学校同窓会 会長 陶山 知政（24期・土木）

ここ数年、我々の暮らしは新型コロナウイルス感染症に振り回され、思うように行動できない環境に私自身もどかしさを感じています。そんな世の中ではありますが、会員の皆様におかれましては、各界各分野でご活躍のことと思います。

最新の話題としては、本年8月24日にTBSで放映された「東大王クイズ甲子園2022」において、松江高専クイズ研究会の学生3名が見事優勝、全国制覇を果たされました。おめでとうございます。昨年は男子バレー部が春高バレーに全国高専史上初出場を果たすなど、近年はまさに「文武両道　松江高専ここにあり！」と言わんばかりの後輩たちの活躍に同窓生としての喜びと頼もしさを感じています。

さて本同窓会では、昨年の会報で組織強化に向けての議論をスタートさせたことをお伝えしたとおり、本年度から本格的に新体制づくりに向けて動き出すこととしております。

現在、本同窓会の運営を担っている理事・幹事の構成員は、1期から24期までに集中しており、約8,500人の会員数の内、約5,000人を占めている25期以降の会員の代表が不在の状況となっています。また、地方紙の記事に掲載されていたとおり、近年、女子学生の入学割合が高くなっているにも関わらず、未だに女性役員が不在であるなどの課題も抱えています。

同窓会と母校がさらに発展していくためには、幅広い学科や世代が役員として同窓会活動に主体的に関わり、会員相互の交流が深まる組織にしていく必要があります。

令和6年度には、松江高専創立60周年を迎えます。そのタイミングに合わせ、本同窓会も新体制でスタートを切れるように準備を進めてまいりたいと考えていますので、「我こそは！」と思っていただける、特に若い世代の会員の皆様、同窓会事務局まで申し出ていただけますと幸いです。

結びとなりますが、本同窓会が会員の皆様にとって身近な存在に感じていただけるよう一層努めてまいりたいと考えていますので、引き続き、同窓会活動にご理解・ご協力を賜りますようお願いいたしまして会報発行にあたっての挨拶とさせていただきます。

校長ご挨拶

松江工業高等専門学校 校長 大津 宏康

松江工業高等専門学校同窓会の皆様には、本校学生の教育研究および課外活動への多大なご支援ご協力に、教職員を代表して厚く御礼申し上げます。この紙面を借りまして、本校の近況について紹介いたします。

まず、実習工場の改修についてお知らせします。老朽化した実習工場の改修工事は昨年度末に完了し、新年度からは実習工場「イノベーション・ハブ・まつえ」として利用を開始しております。本年5月18日には、島根県、松江市、松江テクノフォーラム、本校同窓会の代表の方々を来賓としてお招きして完成披露式を開催しました。同窓会からは、会長陶山知政様に来賓として出席いただきました。

ここで、本校のように実習工場を全面的にスクラップ&ビルドした事例は全国に51校あります国立高専の中でも、きわめて稀な事例と聞いております。その意味で、この実習工場をどのように活用するかの責任は非常に重いと感じております。また、「イノベーション・ハブ・まつえ」というネーミングは、学内の公募により選ばれたものですが、今回リニューアルされた実習工場をその名の通りインベージョンの拠点としなければならないと考えております。「インベージョン」に続く「ハブ」という言葉は、ご承知のように、航空機の「ハブ空港」で使われる、自転車のタイヤ部分での「ハブアンドスポーク（Hub & Spoke）」の中心部を表すものです。したがいまして、「イノベーション・ハブ・まつえ」というネーミングは、松江高専で開発された技術が、ここから日本中へ、そして世界中へと、スポーク状（放射状）に発信/展開されることを目指しているものと認識しております。

次に、本校における新型コロナウイルス感染症に関連する状況についてお知らせします。島根県では6月末以降から感染者が急増しました。これに連動して、本校でも感染者あるいは濃厚接触者が、療養や健康観察のため授業を欠席する事態が度々発生しました。しかし、数日間の学級閉鎖、学年閉鎖は実施しましたが、可能な限り対面で授業を実施するとともに、ほぼ予定通り期末試験を終えることができました。

このように、コロナ禍は発生から3年目となりましたが、未だ終息する状況にはないため、学校運営は、アクセルとブレーキを状況に応じて同時に操作するという手探り状態が続いています。しかし、このような状況においても、「学び」を止めることなく、松江高専ブランドにふさわしい人材の輩出を目指し教育研究に取り組んでいく所存ですので、同窓会の皆様にはこれまでと変わらぬご協力をお願い申し上げます。

在校生の活躍

レスキューロボットコンテスト2022にてレスキュー工学大賞を受賞

レスコンチーム 顧問 本間 寛己

8月13日・14日に神戸サンポーホールで開催されたレスキューロボットコンテスト2022にて、本校チーム（チーム名：ＭＣＴ、団体名：松江高専 機械工学科）がレスキュー工学大賞を受賞しました。

まず、レスキューロボットコンテスト（レスコン）について説明します。レスコンは阪神淡路大震災を機に始まったロボットコンテストです。レスキュー工学に関わる若い技術者育成と防災・減災についての啓蒙を目的に、2001年に第1回大会が実施されました。本校は、2010年の第10回大会から参加しています。競技ではダミー人形（ダミヤン）を無線操縦のロボットを駆使して救助します。ダミヤンは加速度センサーや圧力センサーを内蔵しており、振動を加えたり、ロボットで強く掴んだりするとダメージがカウントされていきます。救助における「やさしさ」がコンテストの大きなテーマとなっています。また、ダミヤンが救助を待っている競技フィールドは災害により人が近づけない現場を想定しているため、競技者はロボット搭載のカメラ映像のみで操縦を行います。

レスコンが高専ロボコンと大きく異なる点は、ダミヤンをロボットで救助するという中核のテーマがあるので、年ごとに大きくルールが変わらないことです。数年掛けて少しずつロボットの改良を重ねて完成度を高めていくことができます。今回、本校チームは赤ちゃんを抱っこする動きをイメージした救助ハンドをロボットに搭載しました。これは、3年前に当時の参加学生達の雑談の中から生まれたアイディアです。新型コロナの影響で、大会が中止（2020年）になったり、オンラインでの開催（2021年）になったりしたため、大会での使用は初めてでした。総合ポイントでは2位でしたが、この救助ハンドが高い評価を受けてレスキュー工学大賞の受賞となりました。同賞はレスコンにおける最上位の賞で、2017年に続いて2回目の受賞となります。

念願の日本一 5年目に咲いた努力の花

情報工学科5年 佐々木涼太郎（クイズ研究会）

この度TBSの番組『東大王』が主催する大会「東大王クイズ甲子園2022」に同じく情報工学科5年の柿田浩佑、藤原一馬とともに出場し見事優勝しました。

進学校犇めく激戦の近畿・中国ブロック予選では矢継ぎ早に出題される4択問題やボードクイズに3人で力を合わせて挑み勝ち抜けることができました。昨年度はこの地区予選で負けてしまったため、全国大会進出が決定した瞬間は3人抱き合って喜びました。

地上波で放送される全国大会は東京のスタジオで収録され、1回戦から準決勝までが行われました。ここで上位3校に残れば生放送で行われる決勝大会に進むことができます。東大王クイズ甲子園の決勝を生放送で行うというのは番組としても初の試みでした。

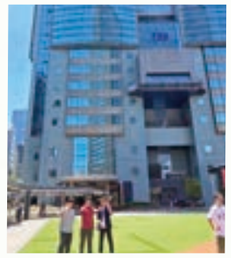
我々は1回戦を無事に勝ち抜け、準決勝では仲間のファインプレーもありなんとか3校に残ることができました。

決勝戦は7問のボードクイズののち制限時間まで早押しバトルが行われるという形式でした。我々はボードクイズ終了時点で最下位でしたが早押しバトルで盛り返し、その後は取って取られてのシーソーゲームを演じました。出場者全員が今までやってきた努力を出し切らんと時間いっぱい全力でクイズを楽しんだ結果、生放送とは思えない大熱戦となり、最終的に1問差という紙一重のところで優勝することができました。

優勝した瞬間、仲間たちと切磋琢磨した5年間の思い出が一気によみがえってきました。

4年前に松江高専クイズ研究会を立ち上げた時はまさか自分たちの手で日本一に上り詰めることができるなんて思ってもいませんでした。ですが、またとない檜舞台でしっかりと結果を残すことができたのも、普段から友人もとい同期達と行ってきた不断の努力のおかげと思います。努力は報われるのです。

今年度で我々創設メンバーの代は卒業しますが、その後も後輩たちがその歴史を紡いでいってくれることでしょう。今後の活躍も応援していただけると幸いです。



編集後記

新型コロナウイルスの影響が広がって、3年目になりました。世の中がウィズコロナとして転換をしていく中で、校内も徐々にコロナ前の形に戻れるよう前進しています。今回は紙面にて、レスコンやクイズ研究会の活躍の様子をご紹介いたしました。いかがだったでしょうか。また、今回の会員の声では、コロナ禍の中で頑張っていらっしゃる、2名の同窓生の方に力強いメッセージを寄稿頂きました。ありがとうございました。

実習工場がリニューアル!!

開校当初から主に機械系学科の実験実習で使われていた実習工場の建て替えが昨年度から行われており、今年5月に晴天のもと、松江市長など関係する方を招いて披露式が行われました。当日は同窓会から陶山会長、井上副会長も出席し式典が行われた後、新実習工場の見学会が実施されました。

新実習工場は2階建てとなっており、1階には旋盤やフライス盤など古くからある工作機械に加えて、レーザー加工機やマシニングセンタなど、自動加工や精密加工が行える機械加工設備を配置し機械系の実習や企業等との共同研究に活用されています。2階には3Dプリンタや基板加工機などが設置してあり、機械系以外の学生でも使用できるデジタル加工設備が充実しています。新実習工場の愛称は「イノベーションハブ まつえ」となり、松江高専の学生のみだけでなく、公開講座や企業連携を通した地域との協働の場として期待されています。

陶山会長の挨拶

旧実習工場での旋盤実習の風景

新実習工場での旋盤実習の風景

実習工場1階の様子

ファブリケーションラボ(2階)の様子

工作教室でレーザー加工を体験

令和3年度 定年退職教員 紹介

情報システムと共に歩んだ13年間

情報工学科　金山 典世 先生

私は、2009年4月に北海道の僻地の大学から情報工学科に移ってきました。以前の職場でも、情報系の学部でしたので、幸いあまり違和感なく教育自体には従事出来ましたが、もう一方の任務である情報システムの管理に関してはかなり驚いた記憶があります。当時の松江高専では、ネットワークに直ぐに繋がる環境になかったためです。同時に、2000年前後のコンピュータ・ウィルス騒動にも無縁であったためか、そうしたものへの対策がなく、どこから手を付けるか皆目見当もつかない状況でした。そのため、1年近く検討をしていましたが、翌年から大規模にシステムの変更に取り組んだことが今も記憶に残っています。

最初に取り組んだのは、情報機器をネットワークに接続するために必要なIPアドレスの設計を行い、それを全てのネットワーク機器に反映させることでした。当時のネットワークは、建物毎に一つのまとまりであったために、もしウィルスが再び蔓延した場合対策が取れない状況でした(実際2000年当時は多くの大学や企業で数日に渡ってネットワークがダウンした)。そこで、今ではマイクロセグメンテーションと呼ばれる手法を適用し、研究室や実験室など部屋を一つのまとまりに変更し、同時にIPアドレスを自動で配布する仕組みを導入しました。また、設計の変更に当たっては、将来の機器の進歩にマッチするように、階や棟毎に小集団から中集団のように段階的にまとめる階層的な設計を行った上で、予めアナウンスした変更日時に一斉に自動で変更を行い、2時間ほどで全ての変更を完了させたのを今も記憶しています。

その後も、ウェブのシステムや、共有資源などを拡充・進歩させるために、まず財源を確保することから始めましたが(多くは外部の何らかのプロジェクトに応募)、構築費をぎりぎりまで削減し、極力システム本体に予算を回すために、ほとんどのシステムをオープンソースを利用して自分たちで構築しています。

この際の経験は、地域の社会人の情報システムの教育にも還元され、幾つもの教材を開発しています。また、この教材を用い、全国51高専の情報処理センター関係者にお集まり頂き、2年に渡って松江高専で学習会を開催し、全国の関係者と交流できたのも良い思い出となっています。

こうした活動とは別に、高専機構の情報関係の委員も兼ねていましたが、その中の活動として、情報セキュリティ監査のために、幾つもの他高専のシステムを見学させて頂きました。通常の監査と違い、この監査ではシステム担当の教職員の方々と、情報セキュリティのために何が必要かという意識をすり合わせ、その方向に学校として努力して頂くことを目的としていましたが、私自身にとっても他高専の様々な工夫を現場で勉強する場でもあったように思います。

今思えば、あっという間の13年間でしたし、まだまだ出来ていないことが多いようにも思いますが、常に何かを考え、それを実現するために奔走し、多くの方々に助けて頂きました。皆様に心より感謝申し上げると共に、松江高専の一層のご発展をお祈り申し上げます。

会員の声

松江高専での思い出と今

漁師小屋「麦穂」/株式会社フィッシャーマンズキャビン
代表取締役 麦穂 浩二
(12期・生産機械(S55/3卒業))

私は松江高専 12 期生で、今は無き生産機械工学科 7 期の卒業生になります。学生時代の成績は超低空飛行(笑)、ぎりぎりで何とか卒業できたような出来の悪い学生でした。学業は鳴かず飛ばずの低空飛行でしたが、5 年の間にいい仲間やたくさんの思い出が出来ました。クラブ活動では運動部と並行して先輩から誘われて軽音楽同好会に参加しました。軽音楽同好会では、当時アマチュアミュージシャンの甲子園のような「ポプコンつま恋本選大会」という全国大会を目指し、軽音初の合宿をして臨み、松江地区予選でグランプリを取れたことはいい思い出となりました。当時はぐれ物の素行不良なサークルというイメージを払拭したいと、同好会を部に昇格をと取り組んだこともいい思い出です。

また 4 年生の時の体育祭では、応援団長を仰せつかり、当時の生産機械は、午前中は強いのに午後からは上級生はほとんど帰ってしまい (笑) なし崩しに大敗して最下位に着地という流れだったのを、同級生先輩方を動員して午後も返さず (笑)4. 5 年生たちの午後の活躍で優勝までは届かなかったものの大健闘をしたこと。応援合戦も例年になく大接戦の優勝争いを演じた事等々、楽しい思い出がたくさんできました。

卒業後は大阪の機械系商社に就職し 2 年で挫折して退職。松江に帰ってとりあえずのアルバイトで出会ったのが居酒屋という飲食業、以来居酒屋一筋で飲食店グループ会社立ち上げにかかわり、経営陣として 25 年務めて退職。その間 55 店舗(部門)ほどの立ち上げを経験してきました。

今は 55 歳で独立し、漁師小屋「麦穂」という海鮮居酒屋を開業して今年が 8 年目となります。ここ 2 年のコロナ禍で大変なダメージを受けた飲食業ですが、おいしい地魚で、大人がほっと一息つける居酒屋を地道に当たり前に日々営業し続けていこうと思っています。飲食業一筋でやってきましたが、エンジニアとしての思考回路がいい結果をもたらしていると思いますし、松江高専卒という経歴が今でも一つの心の支えでもあり誇りに思っています。

ミュージカルに魅せられて

合同会社アート・ブレーン代表　野津 博康
(8期・生産機械(S51/3卒業))

私は 1975 年に松江高専を卒業し、島根県民会館に入社しました。入社当初は技術係で、舞台、照明、音響を担当していました。1994 年にミュージカル「♪あいと地球と競売人♪」を舞台監督として立ち上げて以降、毎年公募でキャスト募集を行い、約 6 ヵ月をかけ稽古し、公演をおこなってきました。2004 年プロデューサーになるのに合わせ文化事業課長に配属になり以降、文化振興課長、舞台技術振興課長となり多くの舞台に関わってきました。2013 年に島根県民会館を退職し、翌年合同会社　アート・ブレーンを設立しました。思い入れの深い、ミュージカルあいと地球と競売人は、2013 年を最後にしまね文化振興財団(旧島根県民会館)で公演を行わなくなりました。そこで、有志で「あい地球実行委員会」を立ちあげ、衣裳、大道具、著作権等をすべて財団から譲り受けました。そして、実行委員会初の自主公演として 2018 年公演が実現しました。その後、2019 年の公演、2020 年はコロナで中止しましたが、昨年 2021 年の公演とコロナ禍の中さまざまな工夫を重ね公演を行いました。今年も 5 月 1 日から稽古を立ちあげ、コロナの状況を見ながら稽古を行っており、11 月 3 日、5 日、6 日(メテオプラザ)11 月 20 日(斐川町文化会館)合計 8 公演行う予定です。地球環境の保護を訴えるこの作品は、今年で 29 回目を迎えます。みなさんも是非ご覧になってください。

「会員の声」募集

会員の声にて、高専在学中の思い出や現況について記事を書いてみませんか。書いていただける方は、同窓会事務局までご連絡ください。

同窓会この1年 (2021年8月～2022年9月)

- 令和３年８月６日　同窓会報(第11号)発行
- 令和4年3月12日　令和3年度 第2回理事会@松江高専会議室
- 令和4年3月15日　定年退職教員への記念品贈呈席
  情報工学科 金山典世教授の退職記念講演後に記念品としてキーケースを贈呈いたしました。
- 令和4年3月18日　第54回卒業式および第19回専攻科修了式@島根県民会館
  コロナ禍のため同窓会入会式も簡略化して「入会に関するアナウンス」のみ実施しました。新規の入会者は、184名です。
  卒業記念品として、図書カード(500円分)を贈呈いたしました
- 令和4年5月18日　新実習工場「イノベーションハブまつえ」完成披露式
  同窓会からは陶山会長･井上副会長が出席し、晴天のもと行われました。
- 令和4年6月11日　令和4年度 第1回理事会@松江高専会議室

※理事会資料は年に1回、各クラスの代議員に送付しております。